

ランドスライドフォトコンテストの結果について

第 53 回研究発表会及び現地見学会実行委員会

平成 26 年度日本地すべり学会第 53 回研究発表会及び現地見学会に合わせて行われたランドスライドフォトコンテストでは、一次審査通過作品 18 点（研究発表会会場に展示）に対して、6 名の審査員による審査を行い、実行委員会により、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点に対して、表彰状・副賞が授与されました。

ランドスライドフォトコンテスト（平成 26 年度）入賞作品

区分	題名	氏名	所属
最優秀賞	Buckling	柴崎達也	国土防災技術株式会社
優秀賞	from up to down	早川裕弐	東京大学空間情報科学研究センター
優秀賞	今西地区 大規模崩壊	松木一志	国土防災技術株式会社
計			

注) 入賞作品は、学会が出版物、Web ページで使用する承諾を受けております（非独占的）。

最優秀賞



題名	Buckling
撮影者（ふりがな）	柴崎 達也 （しばさき たつや）
所属	国土防災技術株式会社
区分	正会員（個人）
撮影場所	沖縄県名護市天仁屋海岸
撮影年月日	平成 22 年 7 月 10 日
写真説明	沖縄県名護市天仁屋海岸には四万十付加体の始新統嘉陽層が分布しており，史跡名勝天然記念物にも指定された学術的にも貴重で見事な褶曲－衝上断層帯が観察できる。写真はその露頭を見に巡検に行った際にたまたま発見した岩盤重力変形露頭である。斜面途中に地層の座屈による褶曲と破碎がみられ，末端部は層理面沿って開口が進んでいる。現地は満潮時のアクセスが難しく，海食が斜面の不安定化に大きく影響していると考えられる。

優秀賞



題名	from up to down
撮影者（ふりがな）	早川 裕弐（ はやかわゆういち ）
所属	東京大学空間情報科学研究センター
区分	非会員
撮影場所	Bergün, Switzerland
撮影年月日	平成 20 年 7 月 19 日
写真説明	山頂付近における氷河・周氷河作用による侵食から、そこで生産された岩屑の土石流による流下と沖積錐の形成、さらにはその先の建物の立地環境まで、一通りの地形変化プロセスが一目で見て取れる光景であり、教材としても有用である。

優秀賞



題名	今西地区 大規模崩壊
撮影者（ふりがな）	松木 一志（まつき かずし）
所属	国土防災技術株式会社 大阪支店
区分(○印)	正会員（個人）
撮影場所	奈良県吉野郡十津川村今西
撮影年月日	平成 25 年 9 月 19 日
写真説明	西向き斜面の標高 1100m から幅約 230m、斜面長約 600m の山腹崩壊が発生して、尾根部に位置する林道川津今西線を寸断し、崩壊土砂が溪流に流出している。 現在も斜面内には不安定土塊が残留しており、崩壊土砂は溪流内を約 1500m 流下して溪流を荒廃させている。

一次審査通過作品（研究発表会場に展示）

題名	撮影者	所属	区分
極寒の積雪調査	大澤 光	京都大学大学院	学生会員
残雪プール	大澤 光	京都大学大学院	学生会員
どこもかしこも	大澤 光	京都大学大学院	学生会員
実験室で発生したミニ地すべり	柴崎 達也	国土防災技術株式会社	正会員
Buckling	柴崎 達也	国土防災技術株式会社	正会員
鳥海山(出羽富士)の山体崩壊と象潟の岩屑なだれ	柴崎 達也	国土防災技術株式会社	正会員
貯水池周辺で生じた地すべり	森 正一	国土防災技術株式会社 四国支店	非会員
剥がされた皮	横内 啓隆	群馬大学大学院	非会員
露出した火山の記憶	横内 啓隆	群馬大学大学院	非会員
半生半死	横内 啓隆	群馬大学大学院	非会員
流下	早川裕弐	東京大学空間情報科学研究センター	非会員
from up to down	早川裕弐	東京大学空間情報科学研究センター	非会員
野尻地すべり	三浦 誠	国土防災技術株式会社 大阪支店	正会員
今西地区 大規模崩壊	松木 一志	国土防災技術株式会社 大阪支店	正会員
上平治川地すべり	銭谷 聡	国土防災技術株式会社 大阪支店	非会員
千葉県太東埼の海食崖と護岸	小花和 宏之	千葉大学	非会員
インパクトバリア(柔構造斜面崩壊対策待受け工)の土砂捕捉事例	奥田 峻	東亜グラウト工業株式会社	非会員
ワイヤネット工(柔構造土石流捕捉工)の土石流捕捉事例	奥田 峻	東亜グラウト工業株式会社	非会員

計 18 点

審査員リスト

中里 裕臣（農研機構農村工学研究所）

浅野 志穂（森林総合研究所）

山本 高司（川崎地質株）

渡部 直喜（新潟大学）

阿部 真郎（奥山ボーリング）

福島 浩（新潟大学）